

2022年9月5日の手交式コメントから

- 1点目は中井やまゆりの現状はかなり改善していると思っています。しかしながら、トイレの状況、例えば、トイレが汚い、便座がない、ということが残っている。食事の提供時に監視をしている。職員が監視をしている状況もまだ残っている。外出支援についても、出かける所が園内の敷地内ということも多く、非常に限定的な支援になっている。総じていうと人間らしい生活ができる環境に届いているところまでいっていないという状況です。特に、委員の方から指摘があったのは園全体が汚い、掃除をしているのかという指摘がありました。居室内におきましては、天井に便を付けたまま放置しているというのはそれなりの感覚では信じられない。今も起こっています。
- 2つ目ですが、骨折事案でもそうですが、最近ビデオでも確認された利用者を台車で運ぶ、そういうビデオがあるのですが、運ぶ時に暴力行為を職員が行ったということがすでに報道されています。この暴力行為にしても園の説明は違っています。これを外部の人間が聞くと隠蔽したのではないかととられかねない園の対応が見られていまして、こうした園の体質、マネジメントの在り方を改善していく必要があると思っています。
- 3点目ですが、現状はそうでもないかと思いますが、これまでやまゆりに対する県庁の対応、関与が非常に低いというところが指摘されます。県立直営施設だが、利用者と職員を園にいわば放置している。県が職場環境、あるいは、利用者の生活環境について十分に目を向けていなかった。その結果として、今の環境ができあがっています。
- 今後、県は、現在は関与を続けているようですが、現在の緊張関係から切れるとまた元の木阿弥の木阿弥に戻る可能性を委員会でも指摘されてい指摘されています
- これは中井やまゆりだけの話ではありません。全国にも及ぶ話です。県は中井やまゆり園だけでなく、全国の入所施設の改革、地域福祉の改革、障害者が地域でその人らしく生きていける施策を実施していただきたいと思っております。

対人理解のパラダイム転換①

- ◆ 「この人は判断能力が不十分であるので、本人の意思は尊重するといっても、周囲のことは勿論自分のことについても適切な判断をすることができない。その結果、社会生活や日常生活で困難な状況になる。だから福祉関係者らが関わって、その人に代わって判断しなければならない」



能力不存推定（代行決定）

対人理解のパラダイム転換②

- ◆ 「どんなに重い認知症の人であっても、その人なりの人生を生きてきた経緯があり、その人なりの思い、そして判断がありうる。適切な判断が自分ではできないと周囲から見られていた人々も、支援さえ受ければ、その人なりの決定ができる」



能力存在推定（意思決定支援）